

国立精神・神経医療研究センター病院にて 身体リハビリテーション部の言語療法リハビリを受けられた方へ

このたび、国立精神・神経医療研究センター病院 リハビリテーション科で受診した際の診療情報等の一部について、下記の研究に対し提供を行います。この研究では、国が定めた倫理指針に基づき、対象となる方お一人ずつから直接同意をいただくかわりに、利用目的等を含む研究の実施について、情報を公開いたします。

この研究に対し診療情報等を利用することにより、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ございませんが、ご自身の診療情報等を利用・提供してほしくない場合は、問い合わせ窓口までご連絡ください。なお、利用・提供してほしくないと申し出られた場合でも、なんら不利益を受けることはございません。

1. 対象となる方

2018 年 1 月 1 日より 2031 年 1 月 31 日までの間に、身体リハビリテーション部で言語聴覚療法の評価・訓練を受けた方

2. 試料情報の提供のみを行う者の機関名・所属・氏名

機関名：国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院

所属・氏名：身体リハビリテーション部 言語聴覚士 石川朋子

3. 試料・情報を提供する研究課題名と研究代表者又は研究責任者

研究課題名：神経変性疾患における発声不安定性イベント解析法の開発

研究期間：研究実施許可受領後から 2031 年 3 月 31 日まで

研究代表者(研究責任者)：国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院 石川朋子

4. 利用又は提供する試料・情報等と取得方法について

情報等：標準ディサースリア (AMSD) 検査の検査結果・録音された音声データ、臨床評価指標 (SARA, UMSARS 等)、通常診療で取得された画像検査所見 (MRI 等)、神経学的所見および臨床情報 (年齢、性別、診断名、罹病期間、臨床評価尺度等、研究目的に必要な範囲)

取得方法：データは診療録から入手。AMSDの音声データはリハビリテーション科ST室にて保管されている録音データより入手。

5. 試料・情報の利用目的及び利用方法

神経変性疾患では、発声が不安定になりやすく、日常生活やコミュニケーションに影響することがあります。現在も、医師や言語聴覚士が声を聞いて評価する方法が中心ですが、人によって感じ方が異なる部分や、細かい変化を数値で示しにくい部分があります。

診療の過程で行っている音声の録音を用い、声の強さ（声量）や高さ（ピッチ）が時間とともにどのように変化するかを、コンピュータで解析します。また、ある変化のあとに別の変化が続くことがあるかどうか調べ、発声のコントロールの特徴を明らかにします。

本研究により、発声の不安定さをより客観的に評価する方法の基礎データが得られることが期待されます。将来、病態の理解、経過の把握、リハビリテーションや診療の参考につながる可能性があります。

提供を行う際には、研究計画に従い、診療情報等の個人情報加工処理を行った上で、対象となる方の氏名や住所などが特定できないよう安全管理措置を講じたうえで取り扱います。

6. 利用又は提供を開始する予定日

研究開始日を予定しています。

7. 問い合わせ窓口

この研究課題の詳細についてお知りになりたい方は、下記問い合わせ担当者までお問い合わせください。

機関名：国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院

所属・氏名：身体リハビリテーション部 言語聴覚士 石川朋子

電話番号：042-341-2711（内線番号 6800）

e-mail: st-gonda@ncnp.go.jp